



Sustainable Society Design (SSD) 3rd Year High School



2021年4月13日 SSD（高校3年生）－授業－

私たちの住みたい街・シビックプライドを持てる街

いよいよこのWWLコンソーシアム構築支援事業の取り組みとしても最終学年の学び、SSR(Sustainable Society Research)から SSD(Sustainable Society Design)へと展開します。新型ウイルス感染拡大の影響から多くの予定変更を余儀なくされていますが、それでも昨年までのドイツの環境政策やヨーロッパの街づくりを学んだ知識を活かし、持続可能な「まちづくり」をテーマに、学校が立地する京田辺市のことを調査研究し私たちの考察から1つの提言をまとめる予定です。生徒たちの誇りを持てる街を、高校生である生徒たちならではの発想でデザインしていきたいと思えます。



●担当する教員

3年間を通じて学ぶこの講座では、多様な専門の教員によるチームティーチング形式での授業も大きな特色の1つです。SSDは2名の教員が担当します。

坂下淳一教諭（理科）：私と帖佐先生はお互いの考えが違っても、忌憚なく意見交換をしています。皆さんもこの講座ではそのようなコミュニケーションを大切に、自分の将来住みたい街へと想像を膨らませて、お互いの意見を恐れず戦わせてください。高校生らしい、そしてハッとさせられる発想を大いに期待しています。

帖佐香織教諭（社会科）：私は、外国、ヨーロッパの街や日常生活に魅力を感じています。それがどうしてなのか、また実はまだよく知らない京都や京田辺のことも、この講座を通して一緒に学びたいと楽しみにしています。

●●昨年度の課題から思い付く発想をどんどん書き出してみる

－参考資料 京田辺市ホームページ「第4次京田辺市総合計画書」

昨年度からの講座の課題：京田辺市のSDGsに関わる取り組みを調べ、興味を持ったこと、高校生が関わるすることができるものを取り上げてみる。

今日は、前年度の課題で注目した取り組み、そして京田辺市が打ち出している総合計画からもSDGsに関わる取り組みを確認し、自分たちの住みたい街、シビックプライドを持てる街についてのアイデアをワークシートに挙げてみました。教員からは、まじめに考えつつも想像力を膨らませて楽しくなるような、そして一過性のイベントのようなものではなく街全体の質を上げるようなものを、というアドバイスがありました。

た。今後、最終的にはそれぞれのアイデアをまとめて発表し、意見を交わしたいと思います。

2021年4月20日 SSD（高校3年生）－授業－

京田辺市への提案

プレゼンテーション①


今日は、前回課題となっていたアイデアを1人1人発表しました。レジュメは事前に各自提出したものを配布します。各発表に対しての評価シートへの記入は、昨年度から続けて来た学びでもあり、生徒たちもすっかり慣れた様子で取り組んでいます。

【京田辺市へのプレゼンテーション案】

●公園をより魅力的に

子ども専用というイメージのある現在の公園を、大人もゆっくり一緒に集える場所へ

●自然豊かな市民が利用できるワークスペースを！

 コロナ禍でのリモートワークが増える中、京田辺の豊かな自然を活かした山のワークスペースの整備を

●コミュニティ冷蔵庫

業者や店が残った食材や加工品を順次無料で提供できる冷蔵庫の公共の場での設置を 

●運動と食で街を健康に

市民が楽しんで健康作りを、同時に京田辺の良さや地元店や特産品について知ることのできる野外イベントの企画を

●ジモ teens マップ

コロナ禍で遠足も研修旅行も自粛の今だからこそ、地元を探索し地元を楽しむ、高校生自身による地元の Map 制作と SNS での発信を

●シェア商店

コロナ禍での閉店、またそもそも老朽化で閑散としている商店街の空き店舗を、誰もが短期間借りることのできるパブリックスペースへ

●高付加価値商品を活かす/特産品・直売所の PR

既に現在京田辺にあるものの価値を見直し、それを活かすための料理教室、お茶の入れ方教室等の企画の立案と PR を

●高齢者が住みやすい街づくり

高齢者にこそ楽しみやお得感や利便性が整っている街の整備で、みんなにとっても住みやすい街へ

●京田辺市の特産品・飲食店を盛り上げるプロジェクト



地元の飲食店は市民などから募集した特産品を活かした新メニューなどを提供、飲食店を利用、SNS等でのPRでポイントやクーポンを配布し楽しみながらよい循環を

●街の美化と京田辺の街の魅力を発信



観光名所での京田辺に関するクイズブース設置で街の魅力の再確認を、またゴミ箱を工夫しゴミ捨てでクイズラリーの投票を可能にすることで街の美化を

●特産品「玉露」のテーマパーク



京田辺市のシンボルとして玉露を始めとしたお茶を取り上げたエリアの建設、世界的にもブームになっているお茶文化の発信を

●オンデマンドバスの導入



最新のシステムを使ったオンデマンドバスの導入で、交通の利便性の向上と最新の取り組みでスマートな街づくりのPRを

京田辺市の行動計画を知り、自分たちのアイデアでよい方向に変えられることがあれば、行動計画を加速できればと、それぞれの視点から様々な提案がありました。SDGsの目標からは、「11 住み続けられる街づくり」を中心に7つの目標が取り上げられていました。また他の地域での先行例なども積極的にリサーチして、京田辺市の場合との比較検討も行っています。どんな街に住みたい？京田辺がどんな街だったらいい？京田辺らしさやいいところってなんだろう？そういった想いが次のリサーチにも繋がっているようです。

【プレゼンテーションに関する質問や課題】

- ・現状の説明として、裏付けのある根拠を示せているか
- ・現在既にある取り組みとの比較検討がされているか
- ・資金はどうするのか
- ・地元の産業は守られるか
- ・果たして高校生が出来る取り組みなのか
- ・採算性があるか（効果のある程度見込める裏付けも必要）
- ・管理者や協力者の負担が大きすぎないか

今後は、残りの発表者の提案も聞き、こういった課題の解決策や新しいアイデアをグループに分かれて話し合っていく予定です。



2021年4月27日SSD（高校3年生）－授業－

京田辺市への提案

プレゼンテーション②

今日は先日の発表の続き、そして同じ方向性の提案ごとにグループを作ります。今後はグループワークでより提案の内容を精査し具体化していこうと思います。



【京田辺市へのプレゼンテーション案 続き】

● 特産品「玉露」のブランディング



玉露をより京田辺市の誇れる特産品として認知、PRのため、同志社ブランドとのコラボを

● 災害に強いまちづくり



高校生による災害についての知識や対策などの情報を盛り込んだ防災パンフレットの作成、災害に強い安全なまち京田辺の推進と住民の意識の向上を

● 健やかで安心して暮らせるまちへ



京田辺市のバラエティーに富んだ地形を活かし、もっと気軽に、京田辺のことを知りながら、まち全体を使った健康作りのためのウォーキングコースの設置を

● 観光のための交通整備と学生による地産地消の推進



シェア自転車の整備により、より観光地へのアクセスをよく、また農業が盛んな面を活かし学生による京野菜料理などの動画配信を通じて地産地消の推進を

● 不法投棄・ポイ捨てをなくしてきれいな街づくり



あえてゴミ箱やゴミを受け付ける箇所を多数設けることで、不法投棄やポイ捨ての削減を

生徒たちの発表の途中、質問や課題についても活発に発言がありました。自分の案と重なる部分があると感じた生徒も、全く新しい発想にはっとする生徒も、それぞれに他の提案を聞き新たな課題にも気付いたようでした。



【グループ分け】

1 健康促進関連

2 観光・特産品関連

3 交通関連

4 防災・美化関連

4つのカテゴリを作り、カテゴリの内容と近い提案のメンバーでグループが構成されました。

今後のグループワークでは、それぞれの役割分担をしっかりと行いより効果的に提案の具体化に向けて話し合いを進めていきます。

2021年5月11日-6月29日 SSD（高校3年生）－授業－

京田辺市への提案

グループワーク

京田辺市への提案について、GW中、各グループで役割分担をして各自リサーチを進めました。グループワークの予定でしたが、緊急事態宣言の下で、しばらくは個人での取り組みが続き、宣言の解除後はいよいよグループに分かれての提案作りが始まります。残りの1学期は提案の仕上げに集中して長いスパンで講座を進めていきます。

●提案の修正

提案を修正するには以下の点に改めて気を付けます。

★特性を活かす、独自性のある案へ

★軸のぶれないはっきりとした方向性をもった案へ

個人ベースの提案書をA4のプリントにまとめて提出、教員が内容を確認します。



提出された個人ベースの提案書を全員で共有しながら教員が評価した点などアドバイスを行います。同時に生徒たちからも質問やそれに対する回答の発言もあります。他の人の提案書の評価から、多くの学びがあると考えています。自分の案に対しては、ただの批評に終わらせない、良くするための1つの過程と受け止め、改善へと繋げて今後活かして欲しいと思います。厳しいアドバイスも今後へのエールです！

●提案とアドバイス

ボランティアでポイ捨てを減らす・美しく災害に強いまち

街の防災と美化はまちづくりのキーワード

提案としては当たり前のこと？新しい視点を取り入れているか？

都会では取り組みやすいが、京田辺の特性を考えると必要か？

公園を誰もが楽しめる場所に

シックプライドの高い街には安らげる公園があるという視点

単に公園を整えるだけ？他との比較は？何かの仕掛け、工夫はどこに？高校生らしさ？

自然を活かしたコワーキングスペース、家族でも過ごせる場所づくり

京田辺の土地の特性を活かす、コロナ禍のニーズとマッチ
課題の費用面、他の自治体との比較において京田辺にとってよい解決策か？

アートと福祉/デザイン性の高いコミュニティー冷蔵庫の設置

先例の少ない挑戦的な取り組み
フードロスと貧困、特産品のアピール、複合的な問題解決策
自分は使う？ civic pride は高まるか？ 衛生面、管理といった持続的な体制は？

歩くコース作りとコワーキングスペース

歩くという実現しやすさ、ニーズの高いコワーキングスペースとのコラボ
コワーキングスペースの具体性に欠けているのでは？
やってみたい、行きたいというインセンティブはどこに？

ジモ teensmap (ジモティ+teen's map)

高校生ならではのコース設定、civic pride 向上、健康作り、産業の活性化、複合的な問題の
解決を、事業者、自治体を巻き込んで行う
コースやお店情報のアップデート、玉露ディスペンサー等の具体的な管理方法は？

シェア商店

空き店舗や空き地であった空間を今までにない空間へと生まれ変わらせるという発想から思わぬ付
加価値を生む可能性
管理、コーディネート含めて持続させる工夫は？ 使用者によっては、街に違和感は？

京田辺 ideat (idea+eat)プロジェクト

地元の飲食事業者と高校生のコラボレーション、産業の振興と高校生が地元を知りな
がらお得に飲食できる仕組み
周知の方法や協力してくれる事業者へ理解を得るための具体策は？

tea park

地元の人が自分たちの街の価値の再発見、憩いの場所づくり
既に大手の企業の運営する施設がありながら、独自性は？ 高額な建設費用は？
繰り返し利用したいと思わせる工夫や仕掛けは？

散策モデルコース/休憩スポット

シェアバイクの設置と活用を広めるためのシェアバイクツアー
いろいろなアイデアを盛り込みすぎでは？ 一貫性？新しい発想は？

全ての人が利用できる交通

人に優しい交通のモデル作り、住みやすさ、街の価値を高める
人々のニーズ、行動をリサーチした交通区間、ルート？ 高校生ならではの視点？

小中高生向けの特産品を使ったプロジェクト

子ども達に地元への興味を抱きかけ作り
プランの具体性、インセンティブは？ 対象は地元の人だけでいい？

オンデマンドバス

無駄な運行をなくし、住民のニーズにも応える時代を捉えた案
経営母体の確立、値段設定の裏付けは？
他の類似するケースとの比較検討における京田辺独自性は？

玉露で国際化

ウォーキングマップアプリや大学とのコラボで世界へ発信
アイデアから具体性を持たせるための裏付けは？
どういった効果が期待できるか？

災害に強い街

防災マップの作成や放置林の竹を使った防災グッズの開発
公募では外に丸投げになっていないか？
防災は既に市が取り組んでいて、付加価値を付けるのも難しい課題
今回の案ではキャンピングなど身近なものとのコラボでもいいのでは？

ながらデザイン

様々なテーマのウォーキングコースの設置による健康作りと地元企業の活性化
現在あるウォーキングコースとの差別化？
コース設定の具体的な方法は？

シェアサイクル・レンタルサイクル

オンデマンドバスとの組み合わせによりより利便性の高い移動手段に
地元では自分で自転車を持っている人がほとんど、そのメリットは何？
他の地域での先例をさらに参考に課題への対策、京田辺らしい独自性とは？

ゴミゼロの街

ゴミ箱を増やしポイ捨てを0にする取り組みでシビックプライドを高める
独自の発想？付加価値？ゴミの回収に地下を利用？地下はどこに？費用は？

それぞれに厳しいアドバイスもありましたが、きちんとした裏付けとリサーチに基づいた案には説得力がありました。また、高校生らしい独自性、京田辺の地域性という点にも焦点がきちんと当たっていること、その上で、ワクワクさせられる、やってみたいと思わせる提案を目指していきたいと思います。

●提案の仕上げに向かうグループワーク

今後は緊急事態宣言も解除されたことから、提案の特性を考慮して以下の4つのグループに案を集結させ、グループで話し合い、案を完成させていくための時間を設けていきます。



【グループ分け】

- 健康促進関連
- 観光・特産品関連
- 交通関連
- 防災・美化関連

提案をまとめる際には以下の点に改めて気を付けます。

- ★グループ内で意見を出し合った内容を取り込み、新たな課題に対しては対策を講じ、より具体性、実現性を持たせる
- ★みんなの案の寄せ集めにはならぬよう、軸の案はぶれない
- ★資金面・安全性は実現させるためには大切な要素、課題解決の提案は十分に
- ★全ての案をそのまま実行するという選択肢に加えて、足がかりとなるような試しに取り組める案という提案があってもいい
- ★シビックプライドを高めること、取り締まりや強制ではなく自発的に動くような取り組みであること

グループ内や教員などと、毎回活発に意見を交換しながら、提案について話し合っています。話し合いが進むと同時に、個々のリサーチによる他の地域の先例やデータといった資料も徐々に増えて裏付けとなっています。今まで本来の活発なディスカッションをする機会が少なく、個人での取り組み、ネット上での考えの共有が増えましたが、その中でもこうして提案がまとまってきました。またコロナという状況は、今までになかった新しい価値観の気付きとして、発案を後押しする材料になったという面もあります。生徒たちは、今まで学んできたインセンティブやシビックプライドといったキーワードについても振り返り、提案の仕上げにあたってはさらに想像力を広げて欲しいと思います。準備されたワークシート「～title～の企画提案について」を完成させることで、グループでまとまってきた内容について確認することができます。グループでまとめた提案の内容については、1 学期最後の講座で発表します。ハンドアウトは、事前に作成し提出します。



● 提案のグループ発表

グループでの話し合いを通じて修正された案を発表します。聞く側の生徒たちは、いつもしているように、ただ今回は自分たちで評価項目を決めた評価シートに記入しながら、疑問点についてはほとんど質問をします。

【グループ A：京田辺の自然を活かしたコワーキングスペース】



自然豊かな郊外でありながら、都心へのアクセスがよく働く世代の多い京田辺の特性から、コロナ禍での人々の価値観の変化やニーズに応える。どこか遠くに行かなくても、自然の中で気持ちよく働くことができる、また働きながらも家族と一緒に空間の元有意義な時間を得ることができる場所の提供。Caféを併設し、特産品を材料としたメニューの提供、特産品を材料としたワークショップなど、京田辺の魅力の発信基地としても、特産品でもあり放置林の問題の解決のためにも地元の竹を使った内装、そして地元のアーティストの作品の展示など独自性を出したものにすることで、生活の質を上げながら京田辺への理解を深める付加価値を目指す。

【グループB：ジモ teens マップ】

豊かな自然や誇れる特産品があるにも関わらずそれが周知されていないことに着目し、またコロナ禍で遠足や校外学習の機会の減った中高生のニーズとマッチさせ、国際生による地元の散策マップを作成し SNS で発信しつつ情報交換といったコミュニケーションを取る。マップには、豊かな自然を満喫する他、地元の飲食店巡り、特産品の玉露を持参したタンブラー等にレフィルできる場所、またオープンな同志社大学キャンパスもスポットに入れ、若い世代が楽しみながら京田辺を知り、京田辺の事業者の協力も得て、複合的な課題を複数の組織と協働して解決を目指す。



【グループC：アイデート ideat】

環境に恵まれた豊富な京田辺の特産品があまり周知されていないことに着目、地元の飲食店とコラボ、店での地産地消メニューの提供を通じて特産品のPRへとつなげ、京田辺市の住民ばかりでなく、京田辺市へ通学する学生のシビックプライドの向上と同時に他地域からの集客、産業の活性化を目指す。地元の飲食店で提供する地産地消メニューは、公募から採用してもらい、割引券の発行やキャンペーンへの参加をしても

らい、SNSで利用者に発信する。

【オンデマンドバス・シェアサイクル】

京田辺市では運行するバスの利用者が少なく、車を多く使う傾向があることから、より使用者のニーズに合った京田辺市と事業者によるオンデマンドバスの運行を目指す。また誰もが気軽に使えるシェアサイクルを活用し、京田辺市全体の利便性の向上、生活の質の向上、そして先進的な街ぐるみでの環境への配慮を目指す。シェアサイクルのポートは、空き地利用、環境への配慮を発信する拠点にもなり、エコでクリーンなまち全体の質の向上も期待できる。



全ての発表が終わり、質問などからも更なる課題が明確になりました。どの案も、実現すれば楽しそうだと思います。誰と一緒に取り組むか、どう巻き込むか、複合的な解決に繋げることも大きなポイント

になりそうです。夏休みの期間を利用して、リサーチの幅も広げて、改めて自分たちの提案と向き合って 2 学期を迎えて欲しいと思います。2 学期には本提案の前に、京田辺市の担当者の方へ相談する機会も持つことを予定しています。夏休みの課題は次の表の通りですが、皆さんが夏休み期間中も、アンテナを張り正しい情報を受け止め、広い視点を持ち、見識を広げてくれることを願っています！

●夏休みの課題

課題図書を読み、それぞれに読み取るポイントに応じてまとめましょう。

	タイトル	著者	出版社	以下の内容について書籍がどのように論じているかを読み取って、そのことを中心に記述しなさい。
1	シビックプライド 都市のコミュニケーションをデザインする	伊藤 香織	読売広告社 宣伝会議	都市のコミュニケーションデザインはどのようにシビックプライドを醸成するのに役立つか
2	神山進化論 人口減少を可能性に変えるまちづくり	神田誠司	学芸出版社	神山町ではどのような手法で人口減少を可能性に変えるまちづくりを行っているのか
3	スローシティ 世界の均質化と戦うイタリアの小さな町	島村菜津	光文社新書	イタリアの小さな街はどのようにして世界の均質化と戦ってきたのか
4	人口減少×デザイン	筧裕介	英治出版	日本の人口減少の事実とその対策はどのようにになっているのか
5	ドイツのコンパクトシティはなぜ成功するのか	村上敦	学芸出版社	ドイツのコンパクトシティではどのような工夫がされており、なぜそれは成功しているのか
6	ポートランド 世界で一番住みたい街をつくる	山崎 満広	学芸出版社	ポートランドが世界で一番住みたい街といわれるのはなぜか。
7	デンマークのスマートシティ: データを活用した人間中心の都市づくり	中島 健祐	学芸出版社	人間中心の都市づくりのために、デンマークではどのようにデータを活用しているのか
8	フランスの地方都市にはなぜシャッター通りがないのか	ヴァンソン藤井 由実	学芸出版社	フランスの交通、商業、都市政策はどのように地方都市の活性化に寄与しているのか
9	イギリスとアメリカの公共空間のマネジメント	坂井文	学芸出版社	公共空間から都市を変えるしくみをいかにして実装するか
10	未来都市構想	村上周三	エネルギーフォーラム	都市のスマート化とスリム化がなぜ未来の都市にとって重要なのか
11	モビリティをマネジメントする コミュニケーションによる交通戦略	藤井聡	学芸出版社	コミュニケーションによる交通戦略とはどのようなものか
12	モビリティ進化論 自動運転と交通サービス、変えるのは誰か	アーサー・ディ・リトル・ジャパン	日経 B P マーケティング	既存交通サービスの問題点と 2030 年のシナリオ～自動運転と交通サービスを変えるのは誰か

夏休みの課題図書

-プレゼンテーションとディスカッションの準備

4 回目の緊急事態宣言が発令さる中で 2 学期を迎えることになりました。夏休みも昨年に続き例年とはずいぶん違ったものになったと思いますが、各々が感じたり考えたりしたことがあると思います。そのようなこともまた共有できればと思います。2 回の講座にわたって、各自夏休みに取り組んだ課題図書の精読、レポート作成に続き、課題図書の内容共有のためのプレゼンテーション、その中からいくつかのトピックについてディスカッションを行う準備をしました。

● 授業の前に教員が感じた夏休みについて紹介します！

坂下淳一先生

オリンピックパラリンピックがありました。友人が設計に携わった有明体操競技場はまさにこのクラスで学んでいる持続可能を実現した素晴らしい建築で、少し違った視点から注目していました。あの大きな建物の構造材として木材を使用するという試み。日本全国の木材を利用し、日本の伝統的な木造建築のもつ美しさも表現しています。同時に未来に向けては展示会場としての利用を見込み、不要となる客席は地方自治体のベンチとして再利用できるようにしています。選手村ビレッジプラザは木を組んで建築し、使用後は木組みを外し、これも地域に返還します。こういった環境に配慮する日本の建築とその第一線にいる友人に誇りを感じました。大会で心に残っているのは「失ったものを数えるな、残されたものを最大限生かせ」という言葉。

帖佐香織先生

例年とは違い海外に行かない夏休みの中で、思いがけず今までの人生を振り返る時間も持ちました。その中で改めてこの学校の生徒たちとの出会い、社会に出て様々な場所で活躍する卒業生との交流が、良い刺激や励みとなっていることを改めて実感しました。人と違った多様なバックグラウンドを持つ生徒たちは社会ではマイノリティに属していると言えると思うのですが、どんどん活躍の場を切り開いている卒業生の様子を目の当たりにすると、そういった人達がマジョリティの持つ価値観や考え方に巻き込まれず社会を動かす時代がやってきていると感じています！

このクラスは授業だけど授業ではない、皆さんも新しい価値観に多く触れる機会と捉え、自分の日常や将来に活かして生活を豊かにしてくれたらと願っています。

● 課題図書 1 冊につき 1 つのサマリーのレジュメを作成する

レジュメとプレゼンテーションは、その書籍を読んでいない人も内容を理解し、結果的に全ての本を読

んだのと同じだけの知識を全員が得られることを目標としています。

- ・同じ課題図書を選択した人と相談して作業を進める
- ・プレゼンテーションはレポートを読み上げるようなものではなく、工夫をする
- ・構成としては①全体の内容のまとめ②作者の伝えたいこと③何を学び取ったか
- ・プレゼンテーションの所要時間：20～25分（発表・質疑応答）



生徒たちは活発に相談しまとめる作業を進め、教員は1人1人の夏休みの課題に対してアドバイスをしました。

●ディスカッショントピックの選定

課題図書の中で、クラス全体で話し合いたい疑問点を個人で5つ以上あげ、優先順位を付けておきましょう。ディスカッションを通じて、様々な角度から物事をみて、議論を通じて理解を深めることを目的としています。

- ・あまりにも漠然とした問い、専門的な知識がないと何ともいえないような問いは避ける
- ・複数の立場の意見が出やすいものを取り上げる

- 教員からプレゼンテーションに向けて各グループの方向性などを見極め、確認とアドバイスをを行いました。書籍の内容の重要性を整理し、正しい理解と問題点などを丁寧に話し込みました。



来週以降3回の講座にわたり、各グループによる課題図書についてのプレゼンテーションを行います。レジュメは締切りまでにも何度か教員に提出し、途中経過を報告、アドバイスを受けます。

●夏休みにSSDの生徒たちが自主的に参加したSDGsに関わる校外プログラム

- ・「2021年度関西学院世界市民明石塾」活動報告：

<https://www.kwansei.ac.jp/unfa/news/detail/107>

2021年9月21日-10月19日 SSD（高校3年生） -授業-

夏休みの課題図書 -プレゼンテーション

予てより取り組んできた夏休みの課題図書をまとめる一環で、グループによる課題図書の内容共有のためのプレゼンテーションを実施しました。全 12 冊の各発表は、それぞれの持ち時間が質疑応答の時間を合わせて 20 分～25 分、3 回の講座に渡って行います。生徒たちは講座の時間外にも、グループで共有のウェブサイトを使い話し合い、作業を分担し、準備をしてきました。

【生徒たちのプレゼンテーションより】

●『人口減少×デザイン -地域と日本の大問題を、データとデザイン試行で考える』

日本や多くの地域でも直面する課題である人口減少。人口減少をだれもが無関係ではいられない重要かつ最大の問題と捉え、その本質をわかりやすくデータを元にカラフルな図などデザインの力で解き明かしています。明らかになった急激な人口減少、地域圏の減少が大きな問題とされる中、日本の 2060 年の人口一億人前後を維持できると推計されている 5 つのアクション、7 つのステップに基づくソーシャルデザインの考え方で人口減少の解決に挑むプロセスを、地域でできるアクションや事例を交えながら紹介、提案しています。



【質問など関心事項】

- ・ソーシャルデザインという発想：問題分析、今ある資源を活かしたプラン作り
- ・人口減少は、生きたい、育てたいという環境作りに専念して解決を目指す
- ・幸福を量る「指標づくり」が筆者の提言の中で出てくるが実際の計測の方法を具体的に知りたい
- ・女性の働きやすいコミュニティを作る仕組み作りが大きな鍵となる
- ・世界的には増加している人口、そこまで大きな問題と感じていなかったが、人口減少が地域の衰退の深刻な要因と知り、また表や図から人口がいかに減っているか喫緊の課題であるという現状を知った

●『モビリティ進化論』

現在の自動車業界は 100 年に 1 度の大変革期である。変化の 4 つの特徴として「つくり方」「パワー
トレイン」「人・社会とのインターフェース」「使い方」を挙げています。特に自動運転化やコネクテッド化、シ
ェア化では大きなビジネス化につながる自動運転と次世代モビリティサービスについての普及に向けたシナリ
オを都市、産業、社会、ユーザーの 4 つの視点からアプローチし、既存事業へのインパクトが述べられてい



ます。都市内交通・都市間交通の人口規模との最適な交通モ
ード、日本に有効となるモビリティサービスの検証を行っています。
大気汚染の軽減、CO2 排出量の削減、財政負担の軽減等
の社会的課題に対しても間接的な効果を期待。

【質問など関心事項】

- ・シェアするよりマイカー文化が根強くある日本では、公共交通
のある都市部であっても車を手放すことは難しいのでは
- ・一般のドライバーが自家用車を使って人を運ぶライドシェアが広まるための法律の規制緩和が必要
- ・モビリティサービスの普及とともに、マイカーでは逆に不便となるような社会の仕組みづくりも必要
- ・モビリティの進化は直近の社会課題解決のために必須だとは捉えにくかったが、環境問題を始めとした身
近な問題の解決のための大きな可能性があるという新しい視点、気づきがあった
- ・日本独自の進化、解決策が求められていると感じる

●『モビリティをマネジメントする』

街の賑わいが自動車の普及により人々が郊外へと移ることで失われている。公共交通の利用者も減り、
バスの廃線など、それを必要としている人の生活の維持と、また環境への負荷を小さくしようとするコンパク
トシティの形成はより困難に。その問題を解決へ導くモビリティマネジメントとは、人と人とのコミュニケーショ
ンを重視し、交通の状況を都市や街がその場所を利用する人に使いやすく、改善していく取り組み。MM
(モビリティマネジメント) の成功例として「歩くまち・京都」、「帯広市の十勝オンデマンドバス」「江ノ島電
鉄の混雑対策」を紹介。熱意と公衆とのコミュニケーションを重視
したことが成功の鍵でした。

【質問など関心事項】

- ・歩くまち京都とシビックプライドはどのように結びつか
- ・十勝バスのワンショット TFP とはどのように人々の気持ちを動かす
仕掛けがあるのか
- ・公衆とのコミュニケーションの一番の方法はアンケートが中心にな
っている
- ・人々の生活圈や行動範囲や移動をコントロールするのもまた仕組みを作る人たち



●『フランスの地方都市にはなぜシャッター通りがないのか』

人口減少、高齢化、地域産業の衰退、自家用車の普及によるモータリゼーションの進展は、中心市街地の衰退の要因となっています。ところが同じ課題を抱えるフランスでは、自家用車の利用に縛られない歩く市街地と郊外型ショッピング施設との共存で QOL（生活の質）の向上を実現。中心街は、車を気にせずショッピングやお茶を楽しむ歩行者専用の空間、そして LRT の整備など公共交通整備を中心としたまちづくりが市民の心地よさにつながっています。こうした交通政策、商業政策、コンパクトシティ政策、そして徹底した情報開示と市民との対話を重視した政治、「どのようにすればできるか」を考え実行するフランスの豊かな QTL の実現のための取り組みから学びます。

【質問など関心事項】



- ・できない理由を挙げるのではなく、どのようにしたらできるのかを考え、実行することが大事
- ・生活の豊かさは誰かが作ってくれるものではなく、自分たちでつくるもの
- ・地方自治では今ある資源や特徴を見直し、独自の政策が必要
- ・京都などで自家用車の利用を制限する取り組みが行われているが、生活を不便にしているのでは意味がない

●『スローシティ 世界の均質化と闘うイタリアのちいさな町』

大型ショッピングモール、チェーン店や画一的な住宅街などによる均質化、没場所性から閉塞感を感じさせる日本のまちづくりに対して、人も文化も置き去りにしない目に見えないものの価値を大切に活かすイタリアのスローシティの各地での取り組みを紹介。著者が考えるスローシティとは、人間という生き物を置き去りにしない、人と人との交流の場を大切にする個性豊かな町。食と美意識への関心が高いイタリアの気質からも、それぞれが受け継いできたものを大切にするまちづくりは、結果的に人にも環境にも配慮した取り組みでもあり、それぞれのまちのシビックプライドの形成にも繋がっています。

【質問など関心事項】

- ・スローシティとコンパクトシティ、またファーストシティの定義の違いや取り組みの違いをもっと知りたい
- ・イタリアの町がスローシティ化を目指した理由、きっかけは何か
 - 大都市への人口流出か
- ・まちづくりは住民で組織された自治体が主体となり、法令や条例も自治体ごとに独自のもの
- ・イタリアの食と住居に対するこだわり、質を重要視している。食はファストフードに対してスローフード



●『ポートランド –世界で一番住みたい街をつくる』

ポートランドは 10 年間にもわたり、全米で一番住みたい街として選ばれているアメリカ西海岸のオレゴン州にある都市。住みたい街として選ばれる理由や 40 年かけて作られてきたコンパクトシティの歴史的背景、行政の仕組みや様々な取り組みをわかりやすく解説しています。自然を愛しライフスタイルを重視する住民の姿勢が、結果的に街の賑わいと環境への配慮を兼ね備えた優しいサステナブルな生活をになっています。ポートランドのライフスタイルとは、物よりも体験、エンタメよりも教育、地元愛から地産地消にこ



だわるといったことに価値を見出す生き方。市民が車とは別の手段で移動がしたいという需要から公共交通機関やサイクリングロードが発達、また市民の投票により設立された P D C の存在で、さらに市民が過ごしやすい環境が整備されるといった、市民が自らの意思で直接まちづくりに積極的に参加し、より良い街をつくっていかうとしている事が街の質の向上へとつながっています。

【質問など関心事項】

- ・市民の声を市政に反映させる具体的な方法とは
- ・街の発足のきっかけを作ったのは意識の高い人たちか、行政か、生き方とまちづくりはどのように結びついたのでか
- ・そもそも地元の人たちのポートランド愛が生まれるきっかけは何か
- ・都市境界線は自然を守るためか、都市設備の費用を節約するためのゾーニングか
- ・ライフスタイルを重視するポートランド市民、日本でそうなるために必要なものは何か
- ・ポートランドを知る前の想像を遙かに超える魅力的な街、一度訪れてみたい

●『神山進化論 人口減少を可能性に変えるまちづくり』

神山町は徳島県中部に位置する過疎地で、全国で 20 番目に「消滅可能性が極めて高い」と告げられました。ところが、ある若者のどうせ住むなら自分たちが楽しいことをやろうと取り組んできたことの積み重ねから IT のまちとしてビジネスや芸術に取り組む若者が集まるように。まちが再生するまでの住民の取り組みを紹介、たくさんのヒントから地方創生戦略を解説しています。「何もない」と諦めず、「何もない」からこそ何にも囚われず、「やったらええんちゃう！」の精神で、できない理由よりもできる方法を見つけるポジティブな支援、仕組み作りを紹介しています。



【質問など関心事項】

- ・シリコンバレーにちなんで活動をサポートするグリーンバレーを設立、同じ何もないところから IT で再生するといった共通点は目の付け所が良い、またユーモアを感じる
- ・何もない、少ない住民といった状況を新しいことをしやすい環境が整っていると捉える
- ・同じことを京田辺の規模でできるか

- ・住民が増え、ますます協働の意識が高まる神山町は、今後の進化も楽しみ
- ・魅力的なまちは海外の事例が多い中、日本の過疎地域での取り組みとその成果に期待がもてる

●『イギリスとアメリカの公共空間マネジメント』

公共マネジメントとは、公園や高架下などの公共スペースを行政や民間がより良い空間とすることです。都市環境の向上のために、イギリス、アメリカの官民連携による公共空間マネジメントの政策や実践例について解説。様々な取り組みは、住民を中心とした非営利組織が関わることで、公共サービスのもとでは公園などへの予算削減で人々の関心も薄れ荒廃しつつあった公共空間を蘇らせ、利用者の増加は人々の生活の質の向上、シビックプライドの向上を実現させています。



【質問など関心事項】

- ・今までの公園の発想とは違う新しい公共空間、まちの雰囲気ガラッと変え人々が集う空間へと変わる効果の大きさを感じる
- ・公共空間の荒廃はまちの治安を悪化させる原因
- ・公共空間によりまちがどのように変わるのかより具体的に多くの例を知りたい
- ・公共空間をどう使うか、手っ取り早くビジネスビルを建てるのではなく、住民、民間の様々な団体を巻き込み可能性を探ることの必要性がわかった
- ・公共空間はまちの活性化にとって大きな可能性を秘めているので、空き地をもっと有効的に整備すべき
- ・官民連携が公共空間マネジメントには不可欠、そしてまちづくりの計画にも同じことが言える・

●『シビックプライド～都市のコミュニケーションをデザインする～』

シビックプライドとは、市民が都市に対して持つ自負と愛着。「ケーススタディ」「論考」「提案」の3つの章を通して、10の事例からシビックプライドを醸成する都市コミュニケーションについて考えています。ヨーロッパで1990年代に本格化した地方分権化と都市間競争、都市の魅力や個性をアピールし、そのプロセスでは市民の関心をかきたてるような「コミュニケーション」に力が注がれました。ケーススタディで紹介される事例は、アムステルダム、ハンブルクの取り組み等、共通点は市民を巻き込む都市づくり、市民自身がまちの魅力であり、まちをより良い場所にしていく力と責任の自覚を啓発している点。シビックプライドを多方面から捉え、その育て方



(よい循環)について先行事例より解説することで、シビックプライドを育てる重要性を伝えています。

【質問など関心事項】

- ・ライフスタイルがパブリックライフとはどういうことか
- ・アムステルダムのどのように世界的な地位を回復していったのかそのプロセスに興味を沸かした
- ・日本では、自分たちがまちづくりの一員だという自覚はあまりなく、行政がやってくれるものという感覚

- ・素早い高度成長の過程で、行政にとっても市民を巻き込み時間をかけることは不都合であったのか
- ・シビックプライドは、あくまでも自分たちがまちづくりに関わっているということが前提で生まれるもの
- ・シビックプライドを育てるための 6 つの要素、京田辺で必要なのは何か

●『ドイツのコンパクトシティはなぜ成功するのか』

コンパクトシティとは、郊外に移住地域が広がるのを抑え、できるだけ生活圏を小さくした街。ドイツの街はコンパクトで活気がある一方で、日本のコンパクトシティはなぜ成功しないか、同じ規模の両都市（フライブルク・青森）の取り組みと現状で比較検証。日本での古くからの人々の土地や家屋の所有へのこだわりが様々な面での整備の大きな壁になっていることがわかりました。ドイツの経済対策では、キロワットアワー・イズ・マネー（エネルギー部門）、キロメートル・イズ・マネー（交通部門）で地域内の省エネ対策、移動の利便性の確保で地域経済の活性化が可能になっていることを紹介。また共通の課題である人口減少・超高齢社会では自家用車主体の交通は立ち行かなくなります。そこで大胆な車の抑制、住宅地の高密度化、商業施設の集約、公共交通の財源確保など、移動距離の短いまちづくりによって交通を便利にし、経済を活性化するドイツのしくみをわかりやすく解説しています。



【質問など関心事項】

- ・土地神話や不動産神話といった日本人の価値観を変えるには、所有することによるメリットを感じない政策が必要
- ・コンパクトシティを作るには、ショートウェイシティを実現させることが必須
- ・住民の話し合いや理解を得た上で、自家用車中心のライフスタイルを変える、誰にも優しい大胆な交通の整備が今後必要

●『未来都市構想 ～スマート&スリム』

よりよい未来都市を実現させるためには環境品質の向上と環境負荷の削減の両方が必要です。しかし双方とも実現させるのはとても困難です。そこでまずは価値観の転換を、すなわちパラダイムシフトをして視野を広げることが重要です。モデル都市を作り、スマート化、スリム化に取り組む事がよりよい未来都市の実現につながります。ここでのスマート化とは、情報システムや各種装置に高度な情報処理能力あるいは管理・制御能力を持たせること、スリム化とは、環境負荷の少ないライフスタイルの実現のための価値観の転換のことです。未来都市実現に向けた日本政府の取り組みは、大幅な CO2 削減に取り組む 13 の環境モデル都市、スマートグリッドの導入、スマートコミュニティの試みといった、IT 技術による環境負荷の低い効率的なまちづくりへの取り組み、そして環境とさらに高齢化の課題に取り組む、環境/社会/経済を重視したトリプルボトムラインを設けている 11 の環境未来都市で試みが行われています。この中から成功事例を全国に未来都市として普及させる計画です。

【質問など関心事項】



- ・環境モデル都市や環境未来都市の選定はどのように行うのか
またどの程度税金が使われるのか
- ・脱物質住宅というイメージが難しい
- ・環境のためということではなく、あくまで人々の生活の品質の向上といった他の要素への影響に目を向けることも大事とわかった
- ・技術の革新により、品質の良さが環境の負荷と比例するわけではない
- ・未来の都市づくりにおいて、価値観の転換は日本をはじめ、発展途上国でもより求められていること

●『デンマークのスマートシティ：データを活用した人間中心の都市づくり』

デンマークにおける現在のスマートシティ社会が出来るまでの生い立ちに加え、それらを成し遂げるためにデータを活用した事例を紹介しています。デンマークのスマートシティの特徴として、「全体最適型：幅広い包括的なアプローチ」「人間中心：市民が中心」「包括的：幅広い参画者の採用」「トリプルヘリックス：デンマーク型産官学連携システム」があり、一般的なスマートシティ、日本での取り組みとの比較対比でわかりやすく解説しています。また日本が学べることとして、北欧民主主義に沿った社会システムの構築を紹介。トリプルヘリックスといったあくまで民間組織が展開するプラットフォームを尊重するシステム、オープンデータといわれる膨大な情報や知識を政府が管理し開示、人間中心の暮らしを最優先しながら先端技術を積極的に取り組んでいます。



ス：デンマーク型産官学連携システム」があり、一般的なスマートシティ、日本での取り組みとの比較対比でわかりやすく解説しています。また日本が学べることとして、北欧民主主義に沿った社会システムの構築を紹介。トリプルヘリックスといったあくまで民間組織が展開するプラットフォームを尊重するシステム、オープンデータといわれる膨大な情報や知識を政府が管理し開示、人間中心の暮らしを最優先しながら先端技術を積極的に取り組んでいます。

んでいます。

【質問など関心事項】

- ・デンマークを中心とする北欧型の取り組みが日本でも多く参考にされていると思うが、具体的にどのような取り組みが日本でされているか興味をもった
- ・デンマークの医療データなども効率化で政府が管理する仕組みは、プライバシーの観点から日本では導入が難しいのでは
- ・デンマークでは市民 web ポータルサイトなどが一般的に活用され「できない」ではなく「学ぼう」とい仕組みのサポートが手厚い
- ・デジタル化はスマートシティ、そしてサステイナブルな生活への移行には欠かせない改革

【プレゼンテーションを終えて】

12冊の課題図書について、全員の発表とディスカッションを交えた質疑応答が終わり、生徒たちはそれぞれ以下の点についてワークシートにまとめました。

- 発表を聞いてわかったこと、疑問に思ったこと
- この本から学んだことで、政策として生かせることがあるか。あるとすればどのような点か。
- 京田辺市の自分の企画との関連性や、企画に活かせる内容はあるか。
- ディスカッショントピックより1つ取り上げてその内容について自分の意見

生徒たちは、大きな政策の実施や費用の面において、政府や自治体が動かなくてはならないと感じていたことが、自分たちの行動や提案、そしてやってみることから変化を起こすという前向きな気持ちになっている様子をうかがうことができました。若者らしく、SNS 等を活用してトレンド化を起爆剤にしたいといった意見もありました。これからの京田辺市への政策提言にも積極的に課題図書から学んだことを活用して行く予定です。



【並行して取り組んでいる課題】

- ・京田辺市への提案の修正と補強
- ・リサーチブック改訂版の編集・修正

2021年11月2日,9日 SSD（高校3年生）－授業－

京田辺市への提案

-補強とそれぞれの提案に対するアドバイス

夏休みの課題図書を精読し共有し知識を広げ理解を深めた生徒たち。予てより取り組んできた京田辺市への提案と必要な部分は関連付けるなど、補強しながらより説得力のある提案を目指します。4つに集約された案を、より良いものにするために、それぞれの改善案について、実際の提案の場を想像して最終的なアドバイスを受け、質疑応答を行い、完成版へと修正していきます。

【修正にむけた課題】

●モビリティを街の“ボンド”に

交通関連のカテゴリーでオンデマンドバスの運行を提案しているグループは提案の名前を一新しました。

シナリオがよくまとめられており、流れのある提案書になっています。

- ・既存の市の取り組みや現状について「マッチしていない」「活用されていない」と断言できないのでこういった表現は避けた方がよい。「見受けられる」「思われる」などの表現へ。
- ・財源が必要な取り組みであるため、市の財政状況をより詳細に把握しておくべき。
- ・突飛な提案と受け止められないよう、「～と比べて」といったように現状との比較において良い面悪い面を説明しながら、提案することが望ましい。下調べを念入りに既存の仕組みとの比較を用意しておく。
- ・提案する対象は誰か、誰が使うのか、自家用車やタクシーとの差別化など、使う側になって想定しておく。
- ・他地域での具体的な事例を京田辺バージョンにすると…という説明は丁寧にわかりやすく。
- ・目的である京田辺市をコンパクトシティへというアピールはぶれないようしっかり伝える工夫を。



●京田辺 ideat プロジェクト

実際の京田辺市にある飲食店と連携し、新規アプリを活用し地産地消や特産品を周知し盛り上げる企画です。シンプルで見やすい提案書になっています。ロゴも目に付きます。

- ・京田辺市役所出も把握しているはずの問題点や課題を強く指摘する必要はない。
- ・提案を思い付いた経緯を説明、ストーリー性を持たせると良い。
- ・下調べをしたのは良いか、実際の店舗名を承諾前の状態であるため提案の段階で表記することは避けた方がよい。
- ・「面白い企画だが手がかかる」という印象だけが残れば取り組む意欲を感じてもらえない。そうではないなら詳細を加え、取り組む意義（見込める効果）を明確に示す。
- ・取り組みを周知するアイデアも盛り込んだ方がよい。あっても使われなければ意味がない。
- ・アプリを実際に立ち上げてみてはどうか。それが難しければ、アプリを仮定して、実際にその使い方レクチャーできればなお分かりやすい。

●ジモ teensmap

高校生が地元のマップを作り、地元をアピールするという高校生らしい、またシビックプライドを高めるという目的にも直結する提案です。地元と制作者の高校生teenをかけたタイトルとロゴもインパクトを与えます。



- ・見やすさ、デザイン性があり簡潔だが、箇条書きが多く堅いイメージを与えてしまうので、楽しい企画、高校生らしい企画の提案にふさわしく文章でよりわかりやすい工夫をする。
- ・SDGs のどの目標に該当するかも合わせて「課題」と「目的」をしっかり対比させると良い。
- ・今回新しく登場した提案である情報提示する場「know 京田辺センター」の詳細を加える。
- ・地図上のテーマ別コースについて、既存のコースと重なるものはしっかり把握、確認しておく必要がある。
- ・実際にマップのサンプルなどが作ってあればなお良い。



●Our space コーワーキングスペース

時代に合った京田辺の自然環境を活かした家族や人も集まり、交流も生まれるコーワーキングスペースの提案です。詳細もよく描かれており、盛りだくさんの内容となっています。

- ・京田辺市の市民芸術家の作品展示は他でも既にある企画なのでここで明記するなら新しいものを提案してはどうか。
- ・参考資料のイメージでは、高級感が漂っているため、これを実現するのは不可能だと感じさせてしまう。豪華なイメージを間違えて与えてしまう挿絵やイメージは避ける。
- ・他地域でも試みのあるメジャーな案ではあるので、京田辺らしさ、差別化、そして他地域での成功例や課題などの比較も大事。
- ・実現のためには、新しく建物を建築するといった案から、既にある建物の再利用やリノベーションなどの案も用意しておき選択肢を増やす。
- ・京田辺市のオシャレな店など調査、協力を求められる体制作りもあれば良い。

【全体を通して】

- 見たい、読んでみようという気になる提案書を目指す
- マナーとして提案先に失礼のないよう気を配った表現に気を配る
- 参考文献や Website のリンクなどリストにしっかり表記する

再修正された提案書は、教員が確認し、冬休みの課題として仕上げの作業に入ります。

2021年11月16日 SSD（高校3年生）－授業－

【並行して取り組む課題】

- ・リサーチブック改訂版の編集、修正
- ・SGH/WWL 全国高校生フォーラムに向けた準備（フォーラムは2021年12月19日にオンラインにて開催予定）

リサーチブック

-完成に向けた最終確認

2 学期最後の講座となりました。今日は遅れて実施された生徒会主催によるハロウインの仮装の日でもあり、個性豊かな生徒たちが課題に取り組みました。課題図書や京田辺市のリサーチ、提案作りと並行してずっと地道に取り組んできたのが、先輩方から引き継いだリサーチブックの改訂版制作です。本来は欧州への現地研修を経て改訂を行う予定でしたが、大幅な予定変更となり、生徒たちは課題図書や自らのリサーチにより、様々な面から修正箇所や追記など検討し編集作業を続けてきました。



【主に取り組む作業】

- ・基本的な書式や文字の間隔、大きさをチェックし、全て統一する

・引用は全てページ毎にページ下にまとめて表記する

各章ごとにそれぞれ違ったグループが担当し、作業を進めてきたため、最終的な調整の作業の日となりました。複数で担当し行ってきた改訂の作業、最終段階での重要な確認作業です。仕上がり、そして製本されて来る時が楽しみです。表紙も新しくリニューアルすることになり、2021 年度の生徒たちのオリジナル版となります。

【並行して取り組む課題】

・京田辺市への提案の最終修正

・SGH/WWL 全国高校生フォーラムに向けた準備（フォーラムは 2021 年 12 月 19 日にオンラインにて開催予定）

2022 年 1 月 25、2 月 1 日 SSD（高校 3 年生）－授業－

京田辺市への政策提言－動画制作

3 学期は、初回は対面で講座が開かれましたが、翌週より再びの新型コロナウイルスの感染拡大の影響で残念ながら残り 2 回の講座は全てオンラインでの開講となってしまいました。皆で顔を突き合わせて京田辺市への提言をさらによりよいものへと議論をしたり、動画を撮影し合ったりできなかったことは大変心残りとなりましたが、Teams で情報を共有し、SSD のまとめに関する課題をこなしながら、京田辺市への政策提案の最終仕上げと個人でのプレゼンテーションの撮影を行いました。

当初の予定の変更を余儀なくされ、研修旅行も、校外での交流も一切行うことができなかった中、地道な作業が多くなりましたが、できることに精一杯取り組み、生徒たちは本当によく頑張りました。この学びに終わりはないので、大学、そして社会人になった後も意識を持ち続け、学んだことを活かし、いつかそれぞれの道でそれぞれの方法で問題を解決し、活躍して欲しいと願っています！応援しています！！

【京田辺市への 4 つの政策提言 動画制作】

- モビリティを街の“ボンド”に
- 京田辺 ideat プロジェクト
- ジモ teensmap
- Our space コーワーキングスペース

【SSD 講座、そして 3 年間の WWL 関連講座を振り返って】

それぞれが、この 3 年間の学びを通して学んだこと、将来に向けての影響など、講座での取り組みを振り返ってレポートを作成しました。

【リサーチブック改訂版】



「WWL 校生が調べた 環境に配慮したドイツの街づくり」

今年度のリサーチブック改訂版は、表紙も鮮やか（生徒によるデザイン、手書き）ですが、中もカラー印刷になり、丁寧に重複部を整理しシンプルな分かりやすさを重視した改訂、また図や写真の再検討の結果、とても明るく見やすくなりました。